

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 葛原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

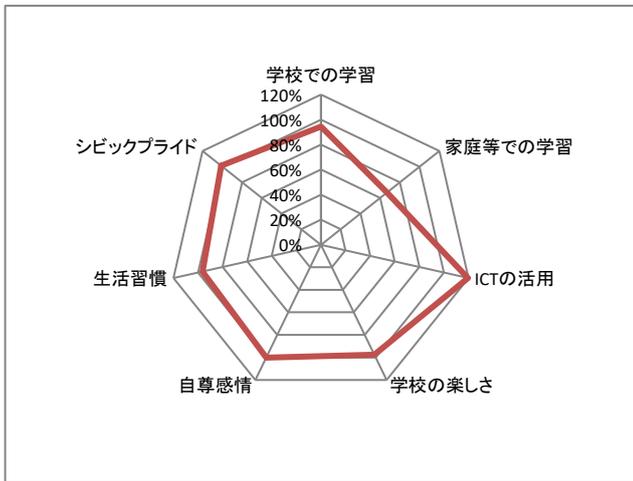
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率を下回っていた。 ・資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫して書く問題に課題がある。普段から資料を基に、自分の考えを伝えるための工夫した文章を書く学習指導要領を習慣化する必要がある。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題の正答率は全国平均より高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	人物像などを具体的に想像できるかを考える問題について課題がある。	

算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率を下回っていた。 ・数量の関係を捉えたり、割合を求めたりすることに関する問題に課題がある。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	立体の見取図について理解し、見取図をかく問題の正答率は全国平均より高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	図形の特徴を生かして、長さの関係を捉え、体積の求め方を式に表す問題について課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果



質問調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足しているか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。 ・ICTの活用や自尊感情、シビックプライドに関する設問に関しては、全国平均を上回っている。学校での学習に関しては自分の考えを上手く伝えられるように、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「楽しい」と思える授業にすることが必要である。 ・「学校の授業時間以外での学習」や「休みの日の学習」が1時間以上と回答した割合が低かった。今後は、ICTを活用したり、個に応じた課題を用意したりする家庭学習に取り組ませ、充実を図るようにする。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・国語については、低学年でMIMや音読などを行うことで、書いたり、読んだりする力を高めている。また、全校で「聞く聞くタイム」として、コグトレに取り組み、認知力や聞く力を高めている。
 ・算数については、朝の補充学習で、基礎的・基本的な内容の定着を図るために計算プリントやCRTの結果などを活用して学習に取り組んでいる。
 ・どの教科の学習でも、タブレットを活用してペアやグループ、全体で考えを交流させ学び合う時間を設定し、伝え合う力を高めていく。
 ・自分の考えを工夫して発表する機会を充実させるなど授業改善に取り組んでいる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

各学年の実態に応じて、自主学習ノートやプリントなどを用意し、家庭での自主学習に取り組ませ、家庭学習の充実を図っている。また、各学年で自主学習や授業のノートなどよい手本を示し、自主学習の方法を指導している。学期に1回、自主学習コンテストを行い、全校で取組の参考となる自主学習ノートを掲示し、紹介している。また、今後はタブレットのドリルアプリなどを活用した日々の宿題や家庭学習に取り組む予定にしている。